

Newsletter

APRIL 2000

<http://www.aack.or.jp>

目次

紀行 ヒュッテ探訪記	能田 成：1
山岳研究 群馬県の山々	岩瀬 時郎：2
お知らせ	
二〇〇〇年総会開催日	
ヒュッテ管理について	
連絡先	
追悼 森本 陸世	
追悼 山岸 久雄	
行事カレンダー	
所蔵品移転	
理事会議事録	
編集記	
計報	

8 7 7 6 5 5 5

5 5 5 5 5 5 5

お知らせ

二〇〇〇年総会開催日
ヒュッテ管理について
連絡先

追悼 森本 陸世

山岸 久雄

行事カレンダー

所蔵品移転

理事会議事録

編集記

計報

ヒュッテは雪原のなかにすくと気高
い。さて、中へ入る。

牧門を過ぎると昔スキー合宿で散々
転げ回ったゲレンデももうすぐだ。白
樺の一本一本にも何となく見覚えがあ
るような気がする。でも随分と新顔の
木が増えたようだ。牧場と云うよりも、
白樺の疎林の下草が芝生であると云つ
た方が正確かもしれない。がやはり周
辺の山々は以前と変わらぬ姿である。

もうすぐ新装なつたヒュッテが姿を現
すはずだ。期待に胸躍る思いだ。

一九九九年十二月二十九日、妙高の
笹谷ヒュッテからスキーをはいてのワ
ンディハイクで新装ヒュッテへの探訪
を試みた。積雪量は一メートル弱、天
気は薄曇り、寒くも暑くもなく、スキ
ーで歩くには良い日和だ。一行の中で
新装ヒュッテを知っているのは最長老
平井ボコさん数名で、初対面組つま
り十一月のお披露目パーティーに出席
できなかつた者が多數派である。だか
らついピッチがあがつてしまふ。「アッ、
見えた!」オーッ!と歓声があがる。私
が最後に見た先代のヒュッテは、屋根
の一部に阪神大震災の被災家屋の如く
ブルーのビニールシートを被つた痛々
しい姿であった。それがどうだ。新装

ヒュッテは雪原のなかにすくと気高
い。さて、中へ入る。

階段を上ると大広間だ。一步足を
踏み入れると黒姫山の威容が目に飛び
込んでくる。大きく頑丈なガラス窓か
らの風景は何百号かの大きな絵画を思
わせるほど素晴らしい。視点が僅か数
メートル上がるだけで見慣れた笹ヶ峰
がこんなにもちがつて見えるものか。
このバルコニーでゆっくりとビールを
飲んだらさぞや旨かろうと想像の世界
を散歩していると、早くもビールの栓
を抜いている者やコップをテーブルに
並べている者がいる。なんとまあ、と
呆れつつ「乾杯」。うまい。

ヒュッテ内部の充実した諸設備、台
所、シャワールーム、トイレ等々、詳
細を述べる必要はなかろう。百聞は一
見にしかず、である。新築に当たつて
寄付をした人、様々なアイディアを出
した人、設計を担当した人、諸々の厄
介な折衝に当たつた人などみんなのヒ
ュッテに寄せる想いの結晶がここにあ
るのだ。このような立派なヒュッテを
維持・管理運営していくことはなかなか
面倒なことだろうが、それが見事に
行われるであろうことについて私は些
かの疑念も抱いていない。出来るに決

ヒュッテ探訪

能田 成

くもそして実際に堂々と昔通りの場所に
建っているではないか。外観は以前の
スタイルを受け継いでいるが、しつ
かりとした高い土台に支えられている。
これなら少々の大雪にもびくともすま
い。さて、中へ入る。

階段を上ると大広間だ。一步足を

踏み入れると黒姫山の威容が目に飛び

込んでくる。大きく頑丈なガラス窓か

らの風景は何百号かの大きな絵画を思

わせるほど素晴らしい。視点が僅か数

メートル上がるだけで見慣れた笹ヶ峰

がこんなにもちがつて見えるものか。

このバルコニーでゆっくりとビールを

飲んだらさぞや旨かろうと想像の世界

を散歩していると、早くもビールの栓

を抜いている者やコップをテーブルに

並べている者がいる。なんとまあ、と

呆れつつ「乾杯」。うまい。

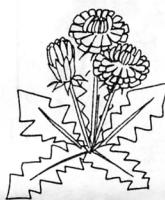
ヒュッテ内部の充実した諸設備、台
所、シャワールーム、トイレ等々、詳
細を述べる必要はなかろう。百聞は一
見にしかず、である。新築に当たつて
寄付をした人、様々なアイディアを出
した人、設計を担当した人、諸々の厄
介な折衝に当たつた人などみんなのヒ
ュッテに寄せる想いの結晶がここにあ
るのだ。このような立派なヒュッテを
維持・管理運営していくことはなかなか
面倒なことだろうが、それが見事に
行われるであろうことについて私は些
かの疑念も抱いていない。出来るに決

まっているからだ。さて広間へ戻つて、もう一杯やろう。

広間にはおよそ二十年前に今西錦司さんが書かれた「……山よ、ヒュッテよ永遠なれ」の色紙が掛かっている。今西さん、ご安心下さい。想像を絶する天変地異でも起らぬ限り、私たちの時間スケールからすれば、このヒュッテは永遠である。これから私たちは四季折々にここを訪うことであろう。バルコニーであるいはストーブを囲んで世代を越えた語らいの時があろう。昔話のあれや、これや。山での失敗談も命にさえ関わらない限り、それらは時間と共に美化されていくものだ。糖尿や血圧を気にしつつアルコールは大量に消費されることであろう。翌日、寝不足と二日酔いでふらつきながら下界へと降り、再び日常の生活に埋没するのだろうか。私にはそうは思えない。一世代を越えた語らいの中からきつと新たな知識の発信があると期待したいのだ。そうあってこそのヒュッテであり、またかつて山のバイオニアを目指した私たちの現実世界での生き様に相応しいのではなかろうか。

この装いを一新したヒュッテを心から楽しみにしておられながら無念にも淨土へ旅立たれてしまつたOBの方々も、私たちのそうした活動をこやかに見守つてくれるのはなかろか。

(1999年1月十五日受理)



群馬県の山々（後編）

谷瀬時郎

III. 谷川・尾瀬・上越国境の山（県北部～北東部）

〔谷川岳周辺の山々〕

谷川岳は一年中登山者やスキーヤー、ハイカーで賑わっている。また数多く紹介されているので詳しく述べないが、一の倉沢を中心とした核心部と異なり、北方の茂倉岳から蓬峰の方面や西側の仙ノ倉山から三国峠の辺りは、夏にはキスゲの咲く穂やかな稜線が続いている。

◆白毛門（一七二〇メートル）、 朝日岳（一九四五メートル）

白毛門は、湯檜曽川を挟んで谷川岳と対峙しており、一の倉沢の写真を撮るには絶好の山。土合の近くの登山口より一気に一〇〇〇メートル強の登りだ。白毛門までは登山者が多かつたが、これ登りだ。白毛門までは登山者が多かつたが、これを越えると静かな山歩きが楽しめる。この日は笠ヶ岳の肩の避難小屋に泊まり、翌日は朝日岳（一四五メートル）を越え宝川渓谷を下る。久しぶりに紅葉の美しさを堪能した。途中、一か所渡渉しなければならない。宝川温泉は露天風呂で有名であるが観光客の世界、通りすぎて静かな民宿に今宵の宿をとる。

(H9.10.10-12)

◆蓬峰・茂倉岳（一九七八メートル）

H8年五月、芝倉沢出合にテントを張る。他にテントはなく快適な一夜を過ごす。翌日蓬峰までと思い出掛けたが、積雪が多く時間切れで引き返した。

(H8.5.3-4)

翌年七月、昨年同様湯檜曽川沿いに蓬峰へ向かう。白樺非難小屋の入口で一人の登山者が棒を持

つて困った顔をしている。今夜泊まろうと思つているが、中に大きな蛇がいて出でていかないという。当方は蓬峰にテントを張り一夜を過ごし、翌日茂倉岳を越え土樽へと下つた。

(H9.7.19-21)

◆イイ沢・仙ノ倉山（二〇二六メートル）

谷川岳周辺の沢歩きでは最も容易なイイ沢に小學生の子供二人を連れ家族登山。土樽駅から歩き、仙ノ倉谷出合にテントを張る。沢は難なく通過したが、その後の藪がひどかつた事を記憶している。

◆猿ヶ京・三国峠

一度猿ヶ京温泉を訪ねてみたく計画した。猿ヶ京の奥にある法師温泉は山奥の一軒宿と宣伝されているが、俗化が進んでいる。旅館の脇を抜けると、雪が舞う静かな山道となる。三国峠に着いた時には雪がかなり激しく舞つてきたので、三国山はまたの機会とし、旧三国街道を猿ヶ京へと下る。この日泊まった民宿は新しく建て替えたばかりで、露天風呂もあり、快適な一夜を過ごした。

(H9.11.23-24)

〔中之条・四万温泉方面の山〕

中之条へは高崎からJR吾妻線で五〇分、四万（しま）温泉へは駅前からバスで四〇分。四万温泉の歴史は古く、源頼光の家臣、碓氷日向守定光が夢のお告げにより見つけたとも坂上田村麿が発見したとも言われている。その効能は四万の病に効くと言う。泉質はサラリとしており気持ちのよい温泉である。

◆稻包山（一五九八メートル）

上越国境に聳えるピラミダルな形の山。赤沢峰から山頂までは夏道ならば往復三時間程度であ

る。峠の東側には猿ヶ京温泉、西側には四方温泉があり、帰りには温泉につかる事が出来るのが嬉しい。昨年末に登りにいった時は峠にテントを張りアタックしたが、膝を超えるラッセルが続いた時間切れとなり撤退。またの機会に行く事としている。

◆石尊山（一〇四九メートル）、

(H10.12.30-31)

高田山（一一二二メートル）、

(H10.12.30-31)

四方温泉へ向かうバスを途中の駒岩で下車。杉林の中をジゲザグに登っていくと大きな岩塊、

これを越えると石尊山の頂上だ。日伏様を祀った石祠があり、五月五日には地元の人々が集うという。高田山へは露岩のヤセ尾根を三〇分。下りは西へのびる尾根を三〇分でわらび峠へ着く。途中藪の中で鹿だろうか、大きな動物の物音。峠からは静かな林道を四方へと下る。クルミ、サルナシ、マタタビの実が秋の気配を感じさせる。ふと崖の上を見ると野猿の群れがこちらを見下ろしておらず、不気味な感じだった。

◆不納山（一一二九メートル）

(H10.8.8)

中之条は桜が満開、四方の温泉街を抜け右手のこじんまりとした稻包神社の横から落ち葉の積もった山道に入る。ジゲザグの急登を三〇分も登ると尾根道に出る。水晶山への道を分けると、次第に残雪が深くなり、落葉樹の静かな山道を一時間半程で山頂に着く。帰りは水晶山経由のコースをたどり四方へと下る。農家の庭先にカモシカが併んでいた。

(H10.4.11)

[県北～東部、その他の山]

◆武尊山（一一五八メートル）

「ホタカ」とよみ、日本武尊が東征のおり登つ

たという伝説がその名の由来である。二〇年近く前に子供を連れて登りに行つた。藤原から登りだし途中の避難小屋で一泊した。山頂近くに日本武尊像が建っている。

◆至仏山（二二二八メートル）

尾瀬ヶ原の西端に位置するこの山は特に紹介する必要は無いでしょう。二十年も前に頂上で酒を飲み過ぎ、足元がフラフラ、子供たちから信用を無くした記憶がある。

◆大水上山（一八三一メートル）

(S53.9.23-24)

利根川の源頭であり、群馬県最北の山でもある。十数年前、利根川を河口から源頭まで辿ろうとジヨギング仲間と銚子から交替で走り、最後にAACKの伊藤寿男さん等と利根川本流を廻り、大水上山に登つた。

◆大峰山（一一五四メートル）、

(S59.9.21-24)

吾妻耶山（一三二二メートル）、

上越線「上牧駅」の付近より西側に見え、南の

なだらかな山が大峰山、その北にやや尖つて見え四葉のクローバを見つけた。五葉も一枚あつた。この日は、人気のない大峰沼にテントを張る。夜中に雪が降り、朝起きると辺りはうつすらと雪化粧。大峰山の途中、熊の足跡が尾根を横切つていった。吾妻耶山の山頂には大きな石の祠が三基、古くから信仰されていた山なのである。今宵の宿は猿ヶ京温泉だ。

(H10.11.21-23)

IV. 上信国境の山（県北西部）

〔野反湖周辺の山〕

野反湖へは高崎から吾妻線の長野原草津口で下車、駅前よりバスで一時間二〇分。

湖畔には六合（くに）村営のバンガロー村がある。野反湖はダム湖であるが田部重治が歩いた頃は湿原であったようだ。八月も終わりになると、一〇〇棟近くあるバンガローも一割程度の客しかおらず、とても静かだ。バンガローは電灯が灯り、フトンも新しく快適だ。昨年の夏はここをベースとし、酒や野菜など食料をたっぷりと持参し周辺の山を登つた。

◆白砂山（一九三五メートル）、

(H10.8.25-28)

◆白間山（一九三五メートル）、

(H10.4.11)

翌日は起床四時半、出発五時半。小雨の降る中を白砂山へ向かう。途中出会う人もなく静かな山を楽しむ。二〇〇〇メートルの辺りから樹林限界を越え、高山の様相を呈してくる。山頂近くで昨日のバスに乗つていたアラインの女性が下りて来ただけの静かな山だった。帰途は八間山を経由して二時前にバンガローに戻つた。

◆三壁山（一九七四メートル）、

(H10.4.11)

翌日も天気は芳しくなかつたが、湖畔の西側を歩くこととし、七時出発。エビ山八時五分三壁山九時二十分。バンガローには十時前に着いた。雨も激しくなつてきて、飲んだり食べたり、ゆっくりと休養する事とした。

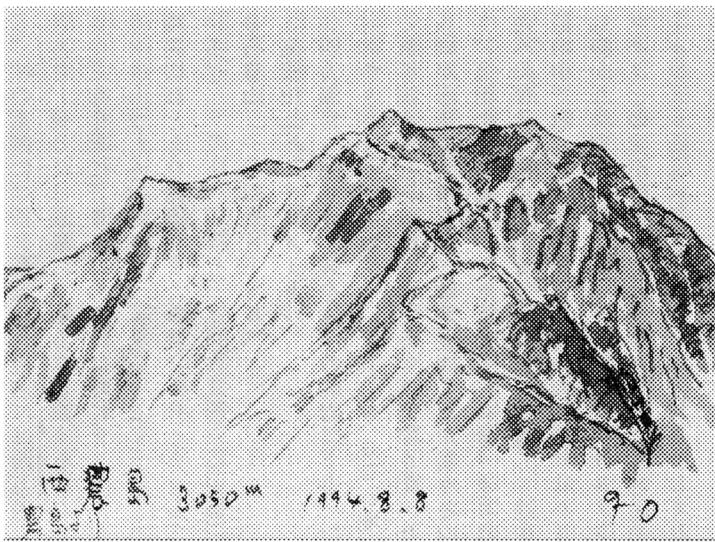
ラジオは栃木県の那須町や福島県の災害情報を流している。最終日は秋山郷へ抜ける予定であったが、悪天のため断念。帰途は吾妻線も不通となり、バスでの振り替え輸送で辛うじて家に帰るこ

とが出来た。

〔その他の上信国境の山々〕

浅間山など多くの山があるが、交通が不便、遠い、俗化している等々の理由で、何となく敬遠し

ている。



学生の子供を連れた家族登山。

一〇〇〇メートルの稜線にテントを上げ一泊。翌日は快晴の下、山頂に立つた。(S59.5.5-6)

◆錫ヶ岳(二三八八メートル) 今西先生も登りに来られた山、一度登りたい山の一つである。

◆皇海山(一一四四メートル) 一〇年前の五月連休に、水瀬サウドと彼の友人と登りに行つた。雪がくさつており、庚申山荘から一二時間以上もかかつた。(H2.5.3-5)

〔桐生とわたらせ渓谷鉄道沿線の山〕

桐生は江戸時代から「西の西陣、東の桐生」と並び称された絹織物の町。古い歴史を感じさせる町である。

◆鳴神山(九八〇メートル)、吾妻山(四八一メートル)

桐生から車で一五分、沢沿いの山道を登つていくと頂上直下に雷神岳神社がある。この付近、四月末からアカヤシオが見事に咲くというが、未だ所々に雪がある。またサクラソウの仲間であるカラソウを保護育成している事でも知られている。吾妻山までは静かな広葉樹林の尾根を辿り、桐生の町へと下つた。(H10.2.28)

◆栗生山(九六八メートル)

わたらせ渓谷鉄道「水沼駅」駅で下車する。駅構内にある温泉センターは有名で、結構にぎわっている。ひつそりとした栗生集落を過ぎ、石段を登ると栗生神社だ。本殿回りの彫刻が歴史を感じさせる。山頂付近はアカヤシオの木が多く、眺望はあまり良くないが静かな山であつた。(H10.3.21)

今西錦司先生も登られた群馬と栃木の県境、足尾山地の南端に位置する山。

わたらせ渓谷鉄道小中駅で下車し、林道を約四時間、登山口付近にテントを張る。翌日、四時前に起き五時過ぎに歩きだす。ウグイスやコマドリの鳴く静かな山歩きは前袈裟丸山まで続く。後袈裟丸との鞍部は崩壊が進んでいて登山口には「通行不可」の立て札があつたが、補修されていて難なく通過。前袈裟丸からは人が多くなる。下りに利用した谷は妖気の漂う陰気な沢であった。

◆根本山(一一九九メートル)

桐生市の奥に聳える山で、JR桐生駅よりバスで約一時間。江戸時代には信仰登山で栄え、今も山頂付近には多くの石祠や神社等があり、往時の栄華を偲ぶことができるという。一度行つてみたいたい山である。

◆赤城山(一八二八メートル)

長い裾野を引き利根川をはさんで榛名山と対峙しているのが、渡川、高崎の辺りから良く見える。榛名山と同様、山頂に沼があり、周囲には登つてみたい山が幾つかあり、一番高いのが黒檜山(一八二八メートル)である。

以上、五つのエリアに分けて紹介しましたが、一般的にオーバーライズされている分類ではありません。また、この他にも多くの山があるのは当然ですが、主な山でも他の県境にまたがる山は抜けている事があるかも知れません。

お知らせ

二〇〇〇年総会予定

二〇〇〇年度のAACK総会は五月二十一日（日）在京大会館で開催します。

■ 笹ヶ峰ヒュッテ管理について

平成十二年二月五日土曜日に笹ヶ峰ヒュッテ暫定管理運営委員会を開催しました。ヒュッテ利用規則などを検討し、ヒュッテ利用に関するパンフレット（ルール）を、会計報告、事業報告などとともに関係者に送付する予定です。

宿泊される方は各自ルールにしたがって宿泊予約をし、規定の料金を支払っていただきます。当然のことながら、電気、ガス、水道の後始末、清掃、火の用心、戸締まりなどには各自が責任を持つ 것입니다。

笹ヶ峰会例会は、天候の問題はありますが、早めに多くの方々にヒュッテ利用に習熟してもらうため、六月三日土曜日午後に行うことになります。

弔辞

追悼 森本陸世

京大山岳部OB 山岸久雄

京都大学東南アジア研究センター
松林公藏様 気付
(社)京都大学学士山岳会
(TEL. 075-753-7368, FAX 075-753-7350)

以上
田中一郎
(二〇〇〇年一月八日受理)

■ 事務局連絡先変更のお知らせ

これまで郵便などのAACKへの送り先は農学部「清水浩様気付」としていました。しかし清水さんが四月から茨城大学へ転勤されるのに伴い、今年の一月から京大へ戻つてこられた松林公藏さんへ連絡先を変更することになりました。

新しい宛先は次の通りです。

〒606-8501

京都市左京区吉田下阿達町四六

京都大学東南アジア研究センター

松林公藏様 気付

(社)京都大学学士山岳会

かわす機会がありました。先日は学士山岳会の新年会で君のいつもの笑顔と元気な声を聞かせてもらいました。同期のよしみで、二人で三次会に行き、久しぶりに昔話をしましたね。勤務先が近くなつたということで、これからはしばしば会えるね、などと話をしましたが、これも実現できることになり、まことに残念です。

山岳部時代の君は、子供の頃の遊び心を失わない、自然体で楽天的な人に見えました。君と一緒に山にゆくと楽しいし、また体力、技術にも優れていたことから、君は技術レベルの高い登山計画によく誘われていましたね。しかし、君も時にはどかな登山をやりたくなるようで、私と一緒に行つた山は大体そんな登山でした。

六月の黒部、高天原で河原に温泉を掘つて入つたり、春の北海道、十勝岳からトムラウシ、石狩、ニペソツと長い長いスキーツアーをしたことがありましたね。君は山岳部を卒業してから、学士山岳会の会員として、当時、世界で最も高い未踏峰といわれていた高度八五〇メートルのヤルンカシ登山の隊員として、頂上へ至る稜線までのルート工作や登頂隊員の救援に活躍され、実力を遺憾なく發揮されました。その後、この度、君の法名ともなつたチベット高原のカンベンチン登山では登攀隊長を勤め、登攀隊員全員が登頂に成功するという、幸せな、充実した登山をなしとげました。君の書かれた登頂記録を読ませてもらうと、時々、ヒヤリとするところもありましたが、隊員一人一人の状態を注意深く見極め、またヤルンカンの経験を生かした的確な判断に、さすがグロン、と感じました。聞くところによれば、上から強制することなく、メンバーのやる気を引き出すリード

森本グロン君、日曜の深夜、君が旅先で急逝との知らせを受け、とても信じられない思いでした。君のご遺族は、この思いを最も痛切に感じておいででしょう。ご遺族の皆様には心からお悔やみを申しあげます。

君とは、京都大学の山岳部とともに四年間を過ごし、その後は、年に一、二度、会つて酒をくみですが、詳細は未定です。

冬の山岳部スキー合宿は、例年通り十二月二十

五日～一月二日を予定しています。

ダーシップに、遠征隊の上からも下からも信頼が集まつたということです。正にこの頃は君が登山家として最も油の乗り切つた時期だつたのですね。

君のこの得難いリーダーシップ能力はその後、君の本業である気象協会の仕事でも發揮されたようですね。次第に責任の大きくなる立場にたち、これからますます実力を發揮すべき時に、余りにも早く亡くなられてしましました。まだまだ、やりたいことがたくさんあるのに、という君の嘆きの声が聞こえるようです。しかし君が最も残念に思つてゐることは、最愛の奥様と可愛いお嬢さんと直接話しをすることができなくなつたことではないでしようか。この会場に飾られたご家族の写真の表情を拝見すると、君が夫として、また父親としていかにご家族から愛され、信頼されているか、よくわかります。君と直接話しをすることができなくなつたとはいゝ、私達には心の中で、いつも君の笑顔と声を思い起こすという道が残されています。君のいなくなつた空洞が長い時間をかけて次第に癒やされるまで、どうか、われわれを見守り続けてください。森本グロン君、君のご冥福をお祈りいたします。

森本陸世さんの略歴

生年月日	昭和二三年一〇月二〇日
昭和四三年四月	京都大学農学部農業土木工学科入学、京大山岳部入学
昭和四五年九月	京大山岳部サブリーダー
昭和四六年四月	京大山岳部リーダー
昭和四七年三月	京都大学農学部卒業、京大山岳

部卒部

昭和四七年四月

京都大学大学院農学研究科修士課程入学、京大学士山岳会入会

ヤルンカン遠征隊員となり準備活動

防災情報システムのオンライン化や配信システムの構築等のプロジェクトの指揮を執つた。更に、首都圏本部の副本部長となつてからは気象情報部門、調査部門など業務全般の指揮を執り、気象協会の組織改革と業務の改善に全勢力を注いでいた。（業務経歴については、財團法人日本気象協会東北本部長 棚橋輝彦氏による）

昭和四八年年

ヤルンカン登山

昭和五三年三月

京都大学農学研究科農業工学専攻博士課程 終了

昭和五三年四月
昭和五七年四月

財團法人日本気象協会に就職
カンベンチン登攀隊長として全員登頂成功

昭和六一年八月
昭和六二年九月

研究所 第三研究部長
情報システム管理室長

平成 三年二月

気象情報本部情報処理部代理

平成 六年六月

気象情報本部情報処理部長

平成一〇年二月

首都圏本部副本部長

平成一〇年五月

京大学士山岳会副会長就任

昭和六一年八月

研究所 第三研究部長
情報システム管理室長

昭和六二年九月

情報システム管理室長

平成 三年二月

気象情報本部情報処理部代理

平成 六年六月

気象情報本部情報処理部長

平成一〇年二月

首都圏本部副本部長

平成一〇年五月

京大学士山岳会副会長就任

研究所勤務の時代には、主に水資源の管理に必要な気象、主に雨量やレーダ情報・水位等のデータを用いた、流出解析等の水文調査・研究に従事し、多くの研究成果を挙げた。この間、我が国無償資金援助で行つた、バングラデッシュ気象局向け気象レーダシステムの基本設計設計・施工管理・運用教育の責任者として働き、バ国より高い評価と尊敬を集めた。その後、此の経験を生かして、インドネシア・パキスタン・中国（台湾）、フィージ等の気象業務の改善計画の立案・推進、（最も得意な）現地OJT教育に多大な功績があり、これらの国々から感謝された。

情報処理部に移つてからは、気象業務の規制緩和に伴う、気象データの民間気象会社や新聞・ラジオ・テレビ等の報道機関、国・自治体向けへの

関係団体行事カレンダー

4月28日(金)より	笹ヶ峰ヒュッテ利用開始日
4月29日～5月7日	笹ヶ峰ヒュッテ管理運営委員常駐
5月12, 13, 14日	探検部OB会、笹ヶ峰ヒュッテ
5月21日 (日)	京大会館、総会
6月3日 (土) 午後	笹ヶ峰会例会、笹ヶ峰ヒュッテ (予)
8月5日～20日	笹ヶ峰ヒュッテ夏の一般開放予定 (予)
10月7日～15日	笹ヶ峰ヒュッテ秋の一般開放予定 (予)
12月25日～1月2日	山岳部スキー合宿、笹ヶ峰 (予)

所蔵品移転について

事務局 吹田啓一郎

AACK文献センター建物の解体に伴う所蔵品の移転などについてその後の進展状況をご報告いたします。

AACKが事務所として専有できる場所を確保できることには至っておりません。これを確保するには現状のキャンパスではかなり困難です。現在の学内では複数の建物を同時に解体・立て替え工事中でありその為の代替場所の確保で多くの関係部局が場所が無く困っているのが実状です。大学改革で新設された研究科も竹田スイッチヨンさんのように古い建物を間借りする状態で、相変わらず研究環境は劣悪です。

それはさておき、文献センターをはじめAACKが所蔵する物品を保管できる場所の確保を最優先に考え、おおよその目途が立つたところです。大きく分けて次の三箇所に分散する予定です。

一 文献センター所蔵書籍→アジア・アフリカ

地域研究研究科図書室研究資料として研究科に寄贈

二 旧制三高以来のノート、映像関係などの歴史的価値ある記録、古い遠征関係装備など→現在建設中の京都大学総合博物館

三 AACK事務書類、出版物の在庫、遠征資料

↓山岳部資料室

山岳部資料室とは山岳部ルームとは別に医学部校内の旧看護婦寮（白眉寮）内に借用している六畳二間の部屋。山岳部使用と共に保管。

一、二が最も量が多く、保管の必要性が高い物ですが、いずれも学内の関係部局に寄贈して、実質、永久保存されることになります。

総合博物館からは、探検大学と呼ばれる京大の

歴史を語る上で貴重な品だという認識で積極的な申し出を受けています。現在、AACK会員、あるいは物故会員の遺族が所有するゆかりの品も収集

したい、との意向もあるようですが、それはまた別途対応を考えます。

しかし、受け入れ先機関の都合で、三月末までに移転を終えることは現実的に不可能です。また

これらの移転にはかなりの人員と時間が必要となります。管財課には三月の契約切れ以後も移転作業のために、完了までの間部屋の継続使用を願い

出ています。ただし、文献センター周辺の整備計画は今年度の補正予算がついているので一部は直ぐに動き始めます。現実的なところでは五月連休頃が移転を終えるリミットではないかと予想しています。

移転作業など、近くの方のご協力を必要とすることがあるかと思いますので、その時はよろしくお願いします。

第三号議案
平成十一年度収支予算について
理事吹田啓一郎によって作成された平成十二年度事業計画に付いて逐一審議の結果、満場一致でこれを承認した。

第二号議案

平成十一年度収支予算について
理事竹田晋也によつて作成された平成十一年度収支予算に付いて逐一審議の結果、満場一致でこれを承認した。

第三号議案

国際登山探検文献センターについて

国際登山探検文献センターの狭隘化に伴う資料の移譲措置に関して、事務局より収集資料を京都大学総合博物館ならびに京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科に移譲する件について提案があり、逐一審議の結果、満場一致でこれを承認した。

第四号議案

副会長の選任について

会長上尾庄一郎より、副会長森本陸世の死去に伴い理事岩瀬時郎を新たに副会長に任命する旨提案があり、満場一致でこれを承認した。

上尾庄一郎、田中二郎、新井浩、岩瀬時郎、西山孝、上田豊、横山宏太郎、松沢哲朗、松林公藏、吹田啓一郎、山田和人、竹田晋也

以上一二名

委任状によるもの 清水浩 以上二名

欠席理事 牛田一成、原田道雄 以上二名

その他の出席者

監事 平井一正、伊藤宏範、事務局 中村真

四 議事の経過および結果

第一号議案

平成十二年度事業計画について

理事吹田啓一郎によつて作成された平成十二年度事業計画に付いて逐一審議の結果、満場一致でこれを承認した。

第二号議案

平成十一年度収支予算について

理事竹田晋也によつて作成された平成十一年度収支予算に付いて逐一審議の結果、満場一致でこれを承認した。

第三号議案

国際登山探検文献センターについて

国際登山探検文献センターの狭隘化に伴う資料の移譲措置に関して、事務局より収集資料を京都大学総合博物館ならびに京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科に移譲する件について提案があり、逐一審議の結果、満場一致でこれを承認した。

第四号議案

副会長の選任について

会長上尾庄一郎より、副会長森本陸世の死去に伴い理事岩瀬時郎を新たに副会長に任命する旨提案があり、満場一致でこれを承認した。

戸田信也

会員 戸田信也様のご令室様から下記の内容の葉書が届きました。

此の度はAACKのお知らせをお送り頂きありがとうございました。長年に涉り御世話様になりなつかしい思い出に浸つておりましたが、去る一月十五日三高時代の皆さまとの会合の為大阪に参り会場間近で急性心筋梗塞が起き急逝いたしました。皆様方の永年のご厚情に感謝致しご報告申し上げる次第でございます。

会のご発展を祈念申し上げます。

森本陸世

二〇〇〇年二月二〇日くも膜下出血のため死去

遺族は夫人美紀子さん、長女彩さん、次女敦子さん

林一彦

平成二二年三月一九日肝臓疾患のため死去。享年七五才。

遺族は夫人和子さん。



編集記

本誌の編集人となつてから第三回目の発行となりました。このニュースレターを期日までに発行することは編集者としての努めであることはよく自覚しているのですが、現実はいつも遅れ気味となり、会員の方々に迷惑をかけ申し訳なく思っています。

私は鎌倉に住んでいますが、ニュースレターの印刷所は京都にあります。未だ印刷所を訪れたこともなく、本誌を仕上げて下さる印刷所の担当の方にお会いしたことはありません。原稿は一部の写真などを除き、全て電子メールで印刷所へ送ります。しかし原稿は横書きですので、それを縦書き文書に書き換え、ニュースレターの書式に納める作業は印刷所の遊磨美由紀さんにお願いしています。

編集者のもとに集まる原稿や情報も、おおむねこれと同様に電子メールで届きます。私の作業は送られてくる文章や情報を手許のノート型パソコンで処理し、文章の順序を指定し、まとめて印刷所へ送ることです。原稿や情報は全てこのパソコン内に保存され、旅行にも帶同していますから、世界の何処にいても編集作業を行うことが可能で

のであることには、疑問の余地はありません。これがなければこの編集作業もできなかつたでしょう。しかしよく考えれば、これがなければ京都から離れて住んでいる私が、編集者になることなど絶対にあり得なかつたはずです。こんなものができたから私にはよけいな作業が増えたのです。パソコンが開発されなければ、おそらく今頃は静かな余生を送り、山登りを楽しんでいることでしょう。

皆様のご投稿を心からお待ちしています。どんな文章でも結構です皆様のニュースレターですから、皆様に書いていただくのが最良にちがいありません。

沖津文雄

FZK04627@nifty.ne.jp
ファックス：0467-23-5331

編集委員

沖津文雄、吹田啓一郎、竹田晋也

発行日

二〇〇〇年四月二〇日

発行所

京都大学学士山岳会

制作

京都市左京区吉田本町

京都大学工学部建築系

吹田啓一郎 気付

電子メールとかインターネットが大変便利なも